

2020(令和2)年度 第4回コンクリート常任委員会
議事録(案)

日時：2020年11月20日(金)14時00分～17時00分

場所：WEB会議

出席者：下村委員長，加藤幹事長，綾野，石田，井上，岩城，岩波，上田(隆)，上田(多)，内田，河野，岸，小林，齊藤，佐伯，佐藤，菅俣，田中，谷村，津吉，中村，二羽，瀨田，原田，平田，細田，本間，前田，松田，松村，丸屋，山口，横田の各常任委員，大内，古市，牧，山路，山本の各常任委員兼幹事，小川(事務局)

配布資料：

- 4-0 2020(令和2)年度 第4回コンクリート常任委員会 議事次第
- 4-1 2020(令和2)年度 第1回コンクリート委員会・第3回コンクリート常任委員会合同委員会 議事録(案)
- 4-2 コンクリート標準示方書英訳小委員会の設置の提案(下村)
- 4-3 土木学会コンクリート委員会 次期委員長 推薦投票について
- 4-4 101示方書改訂小委員会 委員構成
- 4-5 102規準関連小委員会 委員構成
- 4-6 255石炭ガス化スラグ細骨材を用いたコンクリートの設計・施工研究小委員会 委員構成
- 4-7 357部材詳細の設計と照査に関する研究小委員会 2期目設置の提案
- 4-8 2021(令和3)年度 全国大会 共通セッション・特別セッションテーマの募集
- 4-9 2020年度コンクリート委員会 予算執行状況(案)
- 4-10 356養生および混和材料技術に着目したコンクリート構造物の品質・耐久性確保システム研究小委員会 委員構成
- 4-11 363プレストレストコンクリート黎明期に建設された茂喜登牛水路橋の解体調査研究小委員会 委員構成
- 4-12 「鉄筋定着・継手指針」の改訂に伴う講習会のご案内
- 4-13 日本の国際研究力発信強化の方策の提案

追加資料

講習会開催案内：プレキャストコンクリートを用いた構造物の構造計画・設計・製造・施工・維持管理指針(案)に関する講習会

議事：

1. 委員長挨拶(下村)

下村委員長より，第4回コンクリート常任委員会の開催にあたっての挨拶があった。主な内容の概要は以下の通り。

コンクリート委員会の春日昭夫委員(三井住友建設)が，2021年1月から2年間の任期中で日本人初の*fib*会長に就任することになった。コンクリート委員会としても是非支援したい。コンクリート標準示方書設計編で採用されている限界状態設計法の考え方は1986年に作成されたものであるが，もともとはCEB-FIPモデルコードの体系を参考としたものである。その後35年が経過して，近年では*fib*モデルコードの改訂に日本の研究者も多数参加しており，コンクリート標準示方書の内容が逆に先方へ取り入れられることもある。今の時代に相応しいコンクリート委員会や示方書の国際戦略を採ることが，コンクリート委員会の一つの顔として重要と考える。

2. 2020年度 第1回コンクリート委員会・第3回コンクリート常任委員会合同委員会議事録の確認【資料4-1】

山本幹事より、第1回コンクリート委員会・第3回コンクリート常任委員会合同委員会の議事録(案)の確認があり、以下の一点を修正した上で承認された。

- ・p.5 上から4行目 (誤)「大島大橋」→(正)「大島にある中戸橋」

3. その他

なし。

審議事項：

1. 次期委員長選挙の実施方法【資料4-3】

加藤幹事長より、資料について説明され、電子投票の部分を含めて異議なく承認された。
1/15までに投票(pdfを事務局へ配信)、1/21常任委員会で開票の予定。

2. 第1種小委員会の委員構成

(1) 示方書改訂小委員会【資料4-4】

下村委員長より、示方書改訂小委員会の2名の委員追加(山口委員・皆川委員、規準編部会より)について説明があり、承認された。

(2) 規準関連小委員会【資料4-5】

下村委員長より、1名の委員追加(鎌田委員、JIS関連)について説明があり、承認された。

3. 第2種小委員会の委員構成

(1) 石炭ガス化スラグ細骨材を用いたコンクリートの設計・施工指針小委員会(255小委員会)【資料4-6】

下村委員長より、委託側委員1名の委員交代(古屋委員→鷺巣委員)について説明があり、承認された。

4. 第2種小委員会の設置

(1) コンクリート標準示方書英訳小委員会【資料4-2】

下村委員長より、コンクリート標準示方書英訳小委員会の設置提案について説明があり、設置が承認された。質疑応答は以下の通り。

(二羽) 全ての編を英訳するのか

→ これから具体的に検討したいが、基本原則編・設計編・施工編・維持管理編を考えている。

(佐伯) 情報発信の具体的なイメージは

→ アジア各国での講習会、fibモデルコードへの反映などが考えられる。

(小林) 施工編と維持管理編は英訳してどういう使われ方をするのか

→ 維持管理編は2007年版の英訳版がfibの委員会などで参照されている。施工編も、英訳して海外へ情報発信する価値はあると考えている。

(上田(多)) fibモデルコードへの反映は重要なので、最新版の英訳は非常に意味がある。同時に、日本からもfibの活動に積極的に参加して頂くのがよい。

5. 第3種小委員会の設置

(1) 部材詳細の設計と照査に関する研究小委員会(357小委員会の2期目)【資料4-7】

中村委員より、357委員会の2期目の設置提案について説明があり、異議なく設置が承認された。

6. その他

(1) 2021年度土木学会全国大会「共通セッション」「特別セッション」テーマ募集【資料4-8】

加藤幹事長より、例年通り今回も特段の応募はしない旨の説明があり、異議なく承認された。

報告事項：

1. 2020年度コンクリート委員会 予算執行状況【資料4-9】

加藤幹事長より、予算執行状況について説明があった。「委員旅費が使われないため、調査拡充支援金を学会に戻すこととし、その分はコンクリート委員会・常任委員会の予算から差し引く」との説明がなされた。

2. 第3種委員会の委員構成

(1) 養生および混和材料技術に着目したコンクリート構造物の品質・耐久性確保システム研究小委員会（356委員会）【資料4-10】

山本幹事より、委員公募が行われた356委員会（2期目）の委員構成が説明された。

(2) プレストレストコンクリート黎明期に建設された茂喜登牛水路橋の解体調査研究小委員会（363委員会）【資料4-11】

山本幹事より、363委員会の委員構成における1名の委員追加について説明された。

3. 講習会、成果報告会の開催案内

山本幹事より、以下の講習会、成果報告会の開催案内があった。

(1) 「鉄筋定着・継手指針」の改訂に伴う講習会【資料4-12】（2021年1月27日(水)開催予定、土木学会講堂とオンラインのハイブリッド）

(2) プレキャストコンクリートを用いた構造物の構造計画・設計・製造・施工・維持管理指針（案）講習会【追加資料】（2021年3月18日(木)開催予定、開催方法は検討中）

※ 関連して、最近のコロナ感染拡大に鑑み、対面式の会議は避けるとともに、講習会等もハイブリッド開催の是非について、事務局と緊密に連携しながら対応して頂きたいとの説明が、加藤幹事長よりなされた。

4. 講習会、成果報告会の開催報告

山本幹事より、以下の講習会、成果報告会の開催報告があった。

(1) 電気化学的防食工法指針改訂報告会（2020年10月8日(木)、オンライン開催、参加者115名）

(2) コンクリート構造物の設計と連成型性能評価法に関する研究小委員会（第2期）成果報告会（2020年10月20日(火)、土木学会講堂とオンラインのハイブリッド開催、参加者107名（オンライン93名＋講堂参加14名））

(3) 部材詳細の設計と照査に関する研究小委員会 成果報告会（2020年11月10日(火)、オンライン開催、参加者79名）

5. その他

(1) 国際研究力発信強化の方策の提案【資料4-13】

中村委員より、研究成果の国際発信力強化の方策提案について説明があった。国際関連小委員会でも検討した上で、次回は審議事項として具体的な行動案を審議することとした。質疑応答は以下の通り。

（濱田）国際関連小委員会でも、発信力強化の活動案を別途検討している。次回常任委員会でその内容を報告したい。

（下村）土木だけでなく建築やセメント化学も含めたシステムにできるのがよい。

→ それはその通りであるが、まずはコンクリート委員会が先陣を切って進めるのがよいと考えている。

(上田(多)) 資料の最後の「吉田賞」については、選考委員会とは調整済みなのか。

→ まだ調整していない。もちろん、賞や論文集とも連携が必要であり、今後進めていく予定である。なお、論文集の方でも改革を検討しているとのことである。

(石田) 国際ネットワークが重要。国際共同研究として他国の研究者と共著で論文を発表することも重要である。昨今はZoom等で海外の研究者との議論も容易になっている。英語での議論のハードルが高いようであれば、日本へ留学して帰国した日本語を話せる留学生を活用する手もある。

(上田(多)) 中国ではネットワークが非常に進んでいる。日本としても、国際的なネットワークを作っていくことが重要であり、そのためにはやはり英語でのコミュニケーションを図ることが必要である。

(濱田) 国際関連小委員会で発行しているNews Letterでは論文を紹介するページを作っているのので、それを拡充するという方向性も考えられる。小委員会で議論する。

(小林) もともとACTを何とかするというのがきっかけだったが、この提案の中ではACTはどう位置付けられているのか。

→ この提案はACTに限らず、全体的な底上げを意図したものであるが、結果的にACTの引用が増えるものと思われる。

(小林) KCIはSpringerに載せたこともあってIFが上がっている。ACTは独自で行うことを選択したが、今後は雑誌系に載せることも考える必要があるのではないかと。

(2) コンクリートライブラリー157「電気化学的防食工法指針」の英訳化について

山本幹事より以下の説明があった。

委託者側から英訳の希望があり、258 委員会で英訳化を行うことになった。英訳後はコンクリート委員会のHPに掲載する予定。

(小林) 新たに委託を受けるのではなく、旧委員会の枠組みで別途行うということか。

→ 新たな委員会ではなく、旧委員会で対応する。原案は常任委員会でご審議頂く予定。

(3) 示方書電子化の状況

古市幹事より、電子化の状況について説明があった。

業者へのヒアリングが終了し、出版委員会で業者を決定し、理事会にかける。年度内には決定する見込み。実際の電子化作業は来年度から開始見込み。来年度の中頃には電子化されたものが閲覧可能となることを見込んでいる。

(4) 2021年度のJCIコンクリート工学年次大会(名古屋)について

小林委員より以下の説明があった。

2021年度のJCI年次大会(名古屋)はオンラインで開催。1月上旬が投稿メ切なので積極的な投稿をお願いしたい。

次回開催:

日時: 1月21日(木) 14:00~17:00 Web会議(学会講堂での参加可能)

議題は、幹事宛1月11日(月)までにお問い合わせください。

以上

【記録: 牧 剛史】